

## 9 成田国際空港騒音対策

### 9-1 目的

成田国際空港を離着陸する航空機騒音について、市では滑走路に最も近い関地区から「最も騒音影響の大きい時期の測定」の実施の要望があり、夏・冬の年2回の騒音測定の実施を成田国際空港株式会社に要望をしている。

本報告は、平成29年9月(関地区、野間谷原地区)に実施したものを本市が取りまとめたものである。

### 9-2 測定地点、測定期間

関地区：香取市関529番地近傍

野間谷原地区：香取市野間谷原98番地

平成29年9月13日(水)～19日(火)(7日間)・無人測定

### 9-3 測定及び集計方法

測定計器は、精密騒音計と音の到来方向から航空機騒音を自動識別する機能を有する環境騒音観測装置を使用し、屋外において測定した。

「航空機騒音に係る環境基準」に従って、暗騒音より10dB以上大きい航空機騒音を対象に評価した。

### 9-4 運航状況

9月13日～19日に測定した測定期間中の空港北側の運行機数は離陸1,229機、着陸1,188機、離着陸合計2,417機(345.3機/日)となり、離着陸の割合は、離陸が50.8%、着陸が49.2%だった。

表9-1 運航状況

月 日	北側運航機数(機)			離着陸比率(%)	
	離 陸	着 陸	合 計	離 陸	着 陸
9月13日	34	272	306	11.1	88.9
9月14日	355	0	355	100.0	0.0
9月15日	147	200	347	42.4	57.6
9月16日	359	0	359	100.0	0.0
9月17日	97	232	329	29.5	70.5
9月18日	195	210	405	48.1	51.9
9月19日	42	274	316	13.3	86.7
期間通算	1229	1188	2417	50.8	49.2

関地区の測定率(測定機数／運航機数)は、離陸が26.6%、着陸が1.1%、全体で14.1%だった。

表9-2 関地区測定率

月 日	測定機数(機)			運航機数(機)			測定比率(%)		
	離陸	着陸	合計	離陸	着陸	合計	離陸	着陸	合計
9月13日	3	0	3	34	272	306	8.8	0.0	1.0
9月14日	64	0	64	355	0	355	18.0	0.0	18.0
9月15日	44	5	49	147	200	347	29.9	2.5	14.1
9月16日	156	0	156	359	0	359	43.5	0.0	43.5
9月17日	30	4	34	97	232	329	30.9	1.7	14.7
9月18日	26	1	27	195	210	405	13.3	0.5	6.7
9月19日	4	3	7	42	274	316	9.5	1.1	2.2
期間通算	327	13	340	1229	1188	2417	26.6	1.1	14.1

野間谷原地区の測定率(測定機数／運航機数)は、離陸が28.6%、着陸が35.3%、全体で31.9%だった。

表9-3 野間谷原地区測定率

月 日	測定機数(機)			運航機数(機)			測定比率(%)		
	離陸	着陸	合計	離陸	着陸	合計	離陸	着陸	合計
9月13日	22	84	106	34	272	306	64.7	30.9	34.6
9月14日	99	0	99	355	0	355	27.9	0.0	27.9
9月15日	89	91	180	147	200	347	60.5	45.5	51.9
9月16日	83	0	83	359	0	359	23.1	0.0	23.1
9月17日	15	60	75	97	232	329	15.5	25.9	22.8
9月18日	31	84	115	195	210	405	15.9	40.0	28.4
9月19日	12	100	112	42	274	316	28.6	36.5	35.4
期間通算	351	419	770	1229	1188	2417	28.6	35.3	31.9

### 9-5 滑走路別利用状況

測定期間中の空港北側における滑走路別の利用状況は、A滑走路が全体の58.9%、B滑走路が41.1%だった。

表9-4 滑走路別航空機数

種別	離着陸の別	機数	合計	割合	総機数
A滑走路	着陸	384 [関49] [野450]	1,423 [関1,958] [野1,326]	58.9%	2,417 [関2,370] 2.0%増 [野2,402] 0.07%増
	離陸	1,039 [関1,909] [野876]			
B滑走路	着陸	804 [関69] [野887]	994 [関412] [野1,076]	41.1%	
	離陸	190 [関343] [野189]			

[ ]内は平成28年度 関:関地区 野:野間谷原地区

### 9-6 測定結果

#### (1)Lden(時間帯補正等価騒音レベル)

航空機騒音の評価指標が平成25年4月1日よりWECPNL(加重等価平均感覚騒音レベル)からLdenに移行したことから、測定結果はLdenで示しているが、測定結果の継続性の観点および比較参照するため、参考値としてWECPNLの値も併記している。

表9-5 測定結果の環境基準との比較

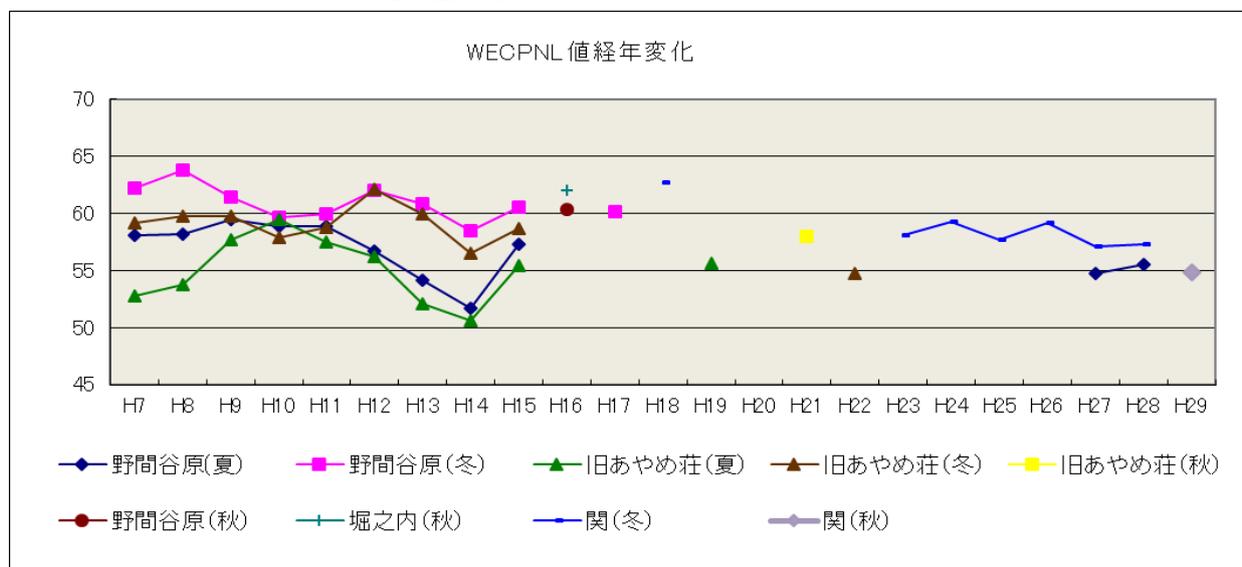
評価指標	環境基準 (I 類型)	測定結果	
		関	野間谷原
Lden	57dB	44.6 [46.8]dB	45.4 [44.9]dB
WECPNL	70W	54.8 [57.3]W	55.3 [55.5]W

I 類型を当てはめる地域は専ら住居の用に供される地域

[ ]内は平成28年度

香取市は、航空機騒音に係る環境基準の「地域類型指定」によって定められた「指定地域」ではないが、この計算方法によってLdenを求めると関地区で44.6dB【参考値:WECPNL(54.8W)】、また、野間谷原地区で45.4dB【参考値:WECPNL(55.3W)】でいずれも環境基準値を下回っている。また、当市のWECPNL(参考値)は近年60W以下で安定している。経年変化のグラフを下图に示す。

図9-1 W値経年変化グラフ



(2)騒音レベル別機数

最大騒音レベル(LAmax)を60デシベル未満、60デシベル以上70デシベル未満、70デシベル以上に分けてみると表9-4のとおりとなる。

表9-6 関地区の騒音レベル別機数

測定点	北側 離着陸機数	測定機数	最大騒音レベル別機数			最大値 dB(A)	60dB以上 の割合
			60未満	60~70	70以上		
関地区 (関公民館)	2,417 [2,370]	340 [1,531]	201 [1,311]	136 [219]	3 [0]	76.6 [69.8]	5.8 [9.2]

[ ]内は平成28年度

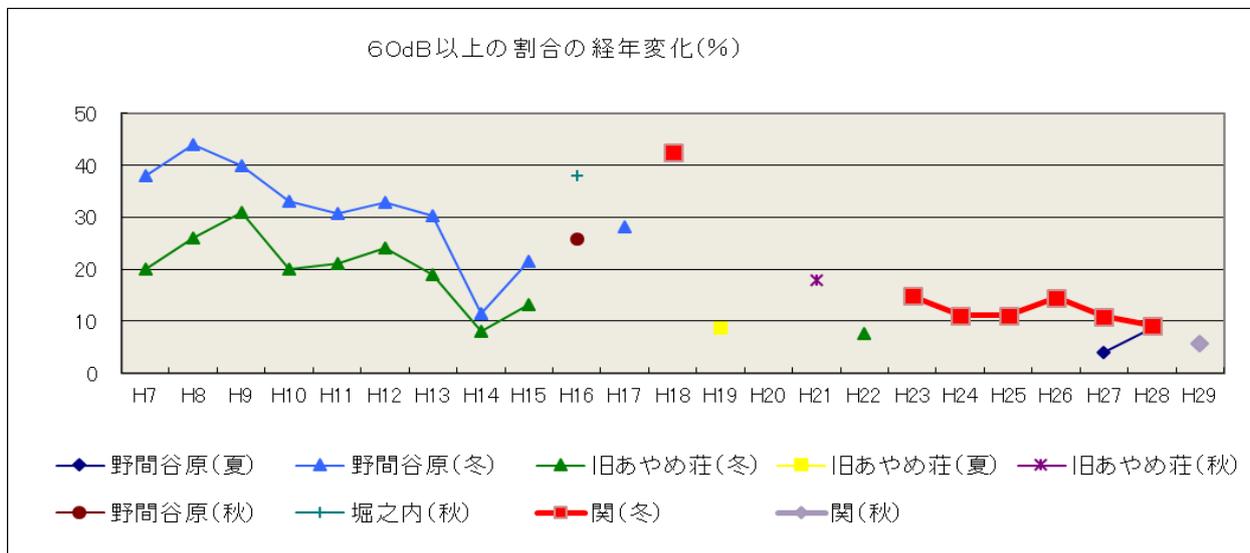
表9-7 野間谷原地区の騒音レベル別機数

測定点	北側 離着陸機数	測定機数	最大騒音レベル別機数			最大値 dB(A)	60dB以上 の割合
			60未満	60~70	70以上		
野間谷原地区 (福寿院)	2,417 [2,402]	772 [827]	536 [616]	236 [211]	0 [0]	69.7 [68.8]	9.8 [8.8]

[ ]内は平成28年度

また、60デシベル以上の騒音を記録した機数の割合の経年変化は図9-2のとおりである。平成18年度と比べると60dBを超える航空機騒音の割合が減っており、近年は10%台にとどまっている。これは近年成田空港を離発着する航空機がB-747などの大型機からA-320などの小型機に推移しているためと考えられる。

図9-2 60dB以上の割合の経年変化



※旧あやめ荘屋上のデータは、平成9年度が市役所屋上、平成7、8年度は県立病院屋上である。

(3) 方面別60dB以上の航空機の割合(%)

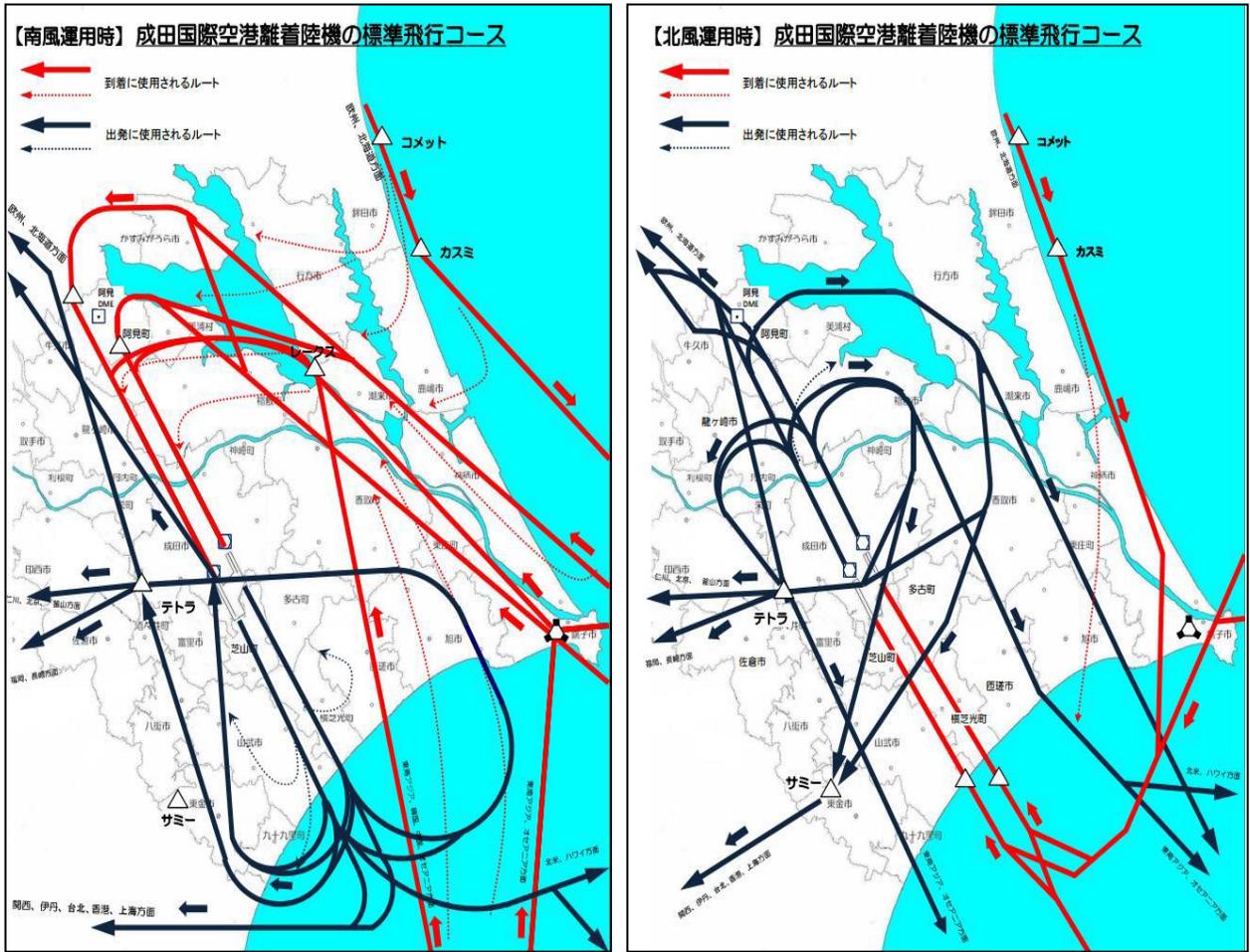
着陸機に比べて騒音レベルが高い離陸機をさらに、方面別にわけて比較すると表9-5のとおりとなる。

表9-8 離陸機コース別60dB以上の割合(%)

行先	関地区	野間谷原地区
アメリカ方面	24.6 [15.2]	13.5 [11.0]
国内・韓国・中国方面	5.2 [6.0]	2.3 [1.0]
東南アジア方面	15.7 [13.5]	5.5 [2.3]
ヨーロッパ方面	2.5 [1.5]	1.3 [0.0]

[ ]内は平成28年度

図9-3 標準飛行コース図



### 9-7 考察

航空機は風に向かって飛ぶため、空港北側においては、北向きの風の日には離陸機が、南向きの風の日には着陸機が多くなる。また、航空機の騒音は離陸機のほうが騒音の影響が大きいとされている。今回の測定では離陸機が50.8%であった。

香取市は、航空機騒音に係る環境基準の指定地域ではないが、両地区とも環境基準を下回っていた。

関地区において、平成28年度の測定結果と比較してみると、騒音レベルが60dB以上の割合は減少しているが、最大騒音レベル(LAmax)は76.6dBであった。また、環境基準のLdenは前回の測定結果を下回る結果であった。

野間谷原地区において、平成28年度の測定結果と比較してみると、騒音レベルが60dB以上の割合は若干増加している。LAmaxは前年度とほぼ同程度の69.7dBであった。また、Ldenは前回の測定結果とほぼ同程度の結果であった。

今後も市内航空機騒音分布状況の把握等、測定点の選定方法も考慮しながら監視を継続していく必要がある。